
安全対策を取り入れた 透析看護マニュアルを活用しての効果

松本和子、鈴木尚子、小松文字、佐藤知子、宇佐美幸子、堀越 恵、江島恵美子、
村上久弥子、佐々木智美、佐々木明美、加賀谷千鳥、畠山 卓[※]、山岸 剛[※]
秋田赤十字病院 腎センター、同 内科[※]

Effect of using dialysis nursing manual that takes Security precaution

Kazuko Matsumoto, Naoko Suzuki, Fumiko Komatsu, Tomoko Satoh, Sachiko Usami
Megumi Horikoshi, Emiko Ebata, Kumiko Murakami, Satomi Sasaki, Akemi Sasaki
Chidori Kagaya, Suguru Hatakeyama[※], Tsuyosi Yamagishi[※]
Akita Red Cross Hospital Kidney Center

<はじめに>

当センターでは約 90 名の患者に透析治療を行っている。最近では糖尿病性腎症に由来する高齢者の導入も多く、長期透析患者においては様々な合併症が深刻化し、患者の QOL の向上を妨げている。このような透析患者に対応するには専門の知識ときめ細やかな配慮が必要となってくる。

現在当センターでは透析看護について明文化したマニュアルはなく、先輩看護師から口頭で指導を受け、自分の経験を生かして看護を実践している。そのため看護の内容は個人によって異なる場合がある。また最近では当センターに新しく配属される看護師が増えているが、透析看護は専門性が高く、看護の内容を把握するのに時間がかかる。患者からは、「新しい人が来ると大丈夫かなと心配になる」などの声も聞かれた。そこで、透析の準備から終了までの看護について、手順に沿ってまとめた「透析看護マニュアル」（以下マニュアルとする）を作成した。マニュアルの中には透析中特に注意すべきポイントを「安全対策」として取り上げ、各場面での事故防止につながるよう工夫した。このマニュアルを活用して看護を行うことで透析時の基本的看護が統一され、患者は安心して透析を受けることができ、全ての看護師は安全・安楽な透析看護ができるのではないかと考えこの研究に取り組んだ。

<用語の定義>

安全対策：患者が安全・安楽に透析が受けられるように講じている対策・看護

基本的透析看護：全ての患者に共通して提供できる透析の準備から終了までの看護

<Ⅰ. 研究目的>

透析看護において「透析看護マニュアル」を活用することの効果と課題を明らかにする。

<Ⅱ. 研究方法>

1. 研究デザイン：独自の質問紙（資料2）を使用した調査研究
2. 対象：A病院腎センターの看護師9名
3. 期間：平成21年5月1日～10月31日
4. データ収集方法：①患者が腎センターへ入室し、透析後退室するまでの一連の看護を「透析看護マニュアル」にまとめる。
②看護師全員にマニュアルに沿って看護を実践してもらい、質問紙による留め置き調査を実施する。
5. 分析方法：調査結果を単純集計し効果と課題を明らかにする。
6. 倫理的配慮

質問紙調査を依頼するに当たり、研究の趣旨を説明し同意が得られた看護師を対象とした。質問紙は無記名とし、得られた情報は研究以外に使用しないこと、協力できなくても不利益を被ることはないこと、質問紙は研究終了後破棄することを説明し同意を得た。

<Ⅲ. 結果>

質問紙の回収率は9名中8名であった。

〈透析看護マニュアルについて〉

1. 「透析看護マニュアル」はわかりやすかったかについて

はい：7名　　いいえ：1名　　どちらとも言えない：0名

その理由は（複数回答）

「はい」～
・透析の流れに沿っている（6名）
・安全対策がわかる（6名）
・手順がわかる（4名）
・必要な看護がわかる（3名）
・内容が具体的である（1名）
・観察の視点が明確になる（1名）

2. 「透析看護マニュアル」の利点はあるかについて

はい：7名　　いいえ：0名　　どちらとも言えない：1名

その理由は（複数回答）

「はい」～
・何度も読み返すことができ理解が深められる（5名）
・一定水準の看護が提供できる（5名）
・マニュアルが指標となる（4名）
・新人の指導に役立つ（4名）
・予習、復習の助けになる（2名）
・看護師間で看護の違いがなくなる（2名）
・不明瞭な点が明らかになる（1名）

「どちらとも言えない」～看護手順・安全対策・看護が一緒に実用的でない（1名）

3. 安全対策があることで利点はあるかについて

はい：8名　　いいえ：0名　　どちらとも言えない：0名

その理由は（複数回答）

- 「はい」～・注意すべきポイントがわかる（7名）　・安全な透析につながる（5名）
- ・リスク回避につながる（3名）　　・安全対策の方法が統一される（3名）
- ・安全対策の根拠がわかる（1名）

（「透析看護マニュアル」を活用し看護を実践してみて）

4. 透析時の一連の看護を行うことができたかについて

はい：7名　　いいえ：0名　　どちらとも言えない：1名

その理由は（複数回答）

- 「はい」～・看護の流れが把握できた（7名）　・統一した看護が実践できた（4名）
- ・わからない事が確認できた（2名）　・患者に自信を持って対応できた（2名）

「どちらとも言えない」～内容が一緒になっていて活用しにくい（1名）

5. 安全対策に沿って安全な透析のための看護ができたかについて

はい：7名　　いいえ：0名　　どちらとも言えない：1名

その理由は（複数回答）

- 「はい」～・注意すべきポイントがわかった（7名）　・注意して観察できた（6名）
- ・安全対策の方法がわかった（4名）　・リスクが回避できた（1名）

「どちらとも言えない」～内容が一緒になっていて活用しにくい（1名）

6. 患者が安楽に過ごせるよう細やかな配慮ができたかについて

はい：7名　　いいえ：1名　　どちらとも言えない：0名

その理由は（複数回答）

- 「はい」～・苦痛がないか声をかけた（5名）　・患者が求める看護を考え実践した（3名）
- ・もっと安楽になるよう援助した（2名）・患者から気兼ねなく声をかけられた（1名）

「いいえ」～余裕が持てなかった（1名）

7. 患者からの言葉や反応について（記述式）

- ・新人の人が来ても不安は感じない　・誰が担当でも同じく世話をしてくれる
- ・（生活指導で）この前もそう言ってくれた看護師がいた

8. 個別性につなげるケアができた個所について（記述式）

- ・体重、除水、指導、管理面での項目（個別性が重要なため）
- ・糖尿病性腎症の患者は血圧低下に注意する

9. 「透析看護マニュアル」を活用して看護を行う上での今後の課題について（記述式）

- ・個別性に対応する　・看護をもっと深める　・内容を分ける
- ・根拠に基づいた看護をもっと明確であればよい
- ・基本となるマニュアルの看護をマスターした上で、個別性のある看護を目指したい
- ・高齢者や認知症患者の危険要因を把握するためのアセスメントツールも必要

<IV. 考察>

これまで当センターには透析時の一連の看護を明文化したものではなく、看護師間で看護の内容に差異があった。今回マニュアルを作成したことにより基本的な看護が統一され、一定水準の看護を提供することができると思われる。マニュアルによって透析時の一連の看護が明らかとなり、ベテラン看護師には透析看護の再確認の機会となった。

また新しく配属された看護師にマニュアルを使用して指導することで、何度も読み返して確認できるため理解が深まり、看護の実践における自信にもつながり、患者にとって安心して透析が受けられるというメリットになり得る。

マニュアルのなかに安全対策を取り入れ、あらかじめリスクなポイントを把握してその対策を実行することで、安全な透析のための看護につながったと考える。透析中のトラブルは事によっては生命にかかわる事態にもなり得るため、マニュアルで注意すべき点を事前に確認し、事故を防ぐよう行動できることは、患者にとって大きなメリットであると言える。(安全対策は当院の医療安全対策に則って作成している。)

マニュアルを活用することで基本的な看護を把握でき、その上で患者に対し安楽な透析が提供できるように配慮していることがわかった。1名が配慮できなかったと答え、その理由として「余裕がなかった」と答えている。これは新人の看護師が一連の透析看護を実践し、様々な患者に対応することで精いっぱい、細やかな配慮をする余裕がない状態ではないかと考える。赤津らは、「同じ患者であっても、毎回の透析が同じ経過であるとは限りません。透析中は安全で安楽に過ごすことができるようきめ細やかな配慮が必要になります。患者個々の抱える問題は多種多様であり、解決していくには専門の知識が必要です¹⁾」と述べている。新人が一人一人の患者に対し細やかな配慮ができるようにサポートすることも重要であるとする。

質問紙の設問で「いいえ」「どちらとも言えない」と答えた1名の看護師は、その理由として「マニュアルの内容が、看護と手順と安全対策が一緒になっていて活用しにくい」と答えていた。これらの意見から今後の課題として、「透析看護マニュアル」の内容を分かりやすく改善し、個別性を考慮する部分を明確にして合併症を持つ患者や高齢者、認知症の患者に対する看護も取り入れ、より充実したマニュアルを作成していきたい。

<V. 結論>

1. 「透析看護マニュアル」を活用して看護することで統一した看護実践が可能になる。
2. 「透析看護マニュアル」は新人看護師の指導に役立つ。
3. 安全対策がリスクの回避につながり、安全な透析看護の提供ができる。
4. 今後の課題として「透析看護マニュアル」をよりわかりやすく整理し改善していく必要がある。また、個別性を考慮した看護実践のために、高齢者や認知症、合併症を持つ患者の看護のポイントを整理していく。

<終わりに>

透析患者の悩みは個々により異なり、多くのストレスを抱えている。「透析看護マニュアル」に挙げた一連の看護を行いながら患者との信頼関係を築き、それらの問題に一つ一つ対応して改善し、より質の高い看護を提供することで、患者のQOLを高めていけるよう努めていきたい。

参 考 文 献

- 1) 水附裕子・大坪みはる他：透析看護 QUESTION BOX4 ハイリスク患者の看護ケア、P4、中山書店、2007年